

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 （注1）	No. -（事務局用）	自治体提示の地域課題名 地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み	自治体名 那覇市
チームがつけたアイデア名 （公開）（注2）	みんなの居場所プロジェクト		

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 （公開）	CHANPURUU		
チーム属性 （公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	<u>1</u>	
メンバー数 （公開）	8名		
代表者 （公開）	平良 和		
メンバー （公開）	上間 幹夫、大塚 乃子、玉城 恒、渡久地 亮、金城 佑佐、山口 渚、鈴木 大吾		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示－非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

確認後 OK なら右に○印を記入⇒○

(1) アイデアの内容 (公開)

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容 (公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動(サービス)なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイント<u>はこれです！</u>をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

- ・[発達障害]と言われる子供たちが増えていくことで、いろいろな側面(学校・福祉現場)で対応や連携が不十分である。
- ・2022年にWHOより「日本のインクルーシブ教育」について勧告を受けているが、対策がない。
- ・2025年より国が掲げている「地域包括システム」がスタートするが、子供の包括的な支援の仕組みができていない。(医療・福祉・教育の連携)

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

既存の児童発達支援事業のしくみを使って、地域の小学校(教育現場)と、地域の児童デイサービス(福祉現場)が協働することで、全てのこどもたちに対して質の高い教育を確保することを目指す。

学校の先生は集団という学級運営をしながら、基礎学力の向上を目指す。児童デイスタッフ(専門職)は、**個人**の課題を抽出し、その子にあった学習の方法でサポートする。また生活の場所となる学校、教室(集団)の中でどのような課題があるのかを評価し、クラス担任、クラスメイトと連携しながら解決していく。

「何を」地域の小学校(教育)と児童デイ(福祉)がそれぞれの専門性を活かし、協働してインクルーシブ教育に取り組む。

「誰が」那覇市の小学校(大名小学校予定)と児童デイサービス(新規に立ち上げ予定)

「いつ」2024年8月にモデル事業としてスタート

「どこで」那覇市の大名小学校の空き教室(予定)

「どのように」空き教室の中に児童デイサービスを設置し運営していく。(事項表を参考)

午前中は、「保育所等訪問事業」※2を利用して、児童デイサービスのスタッフが、対象となる子供の課題となる時間に付き添いながら、子供の課題を抽出し、担任の先生と連携しながら集団の中で過ごせる手立てを考えていく。

放課後は児童発達支援事業の中の「放課後等デイサービス」※1として、本人の個別課題と一緒に取り組む。

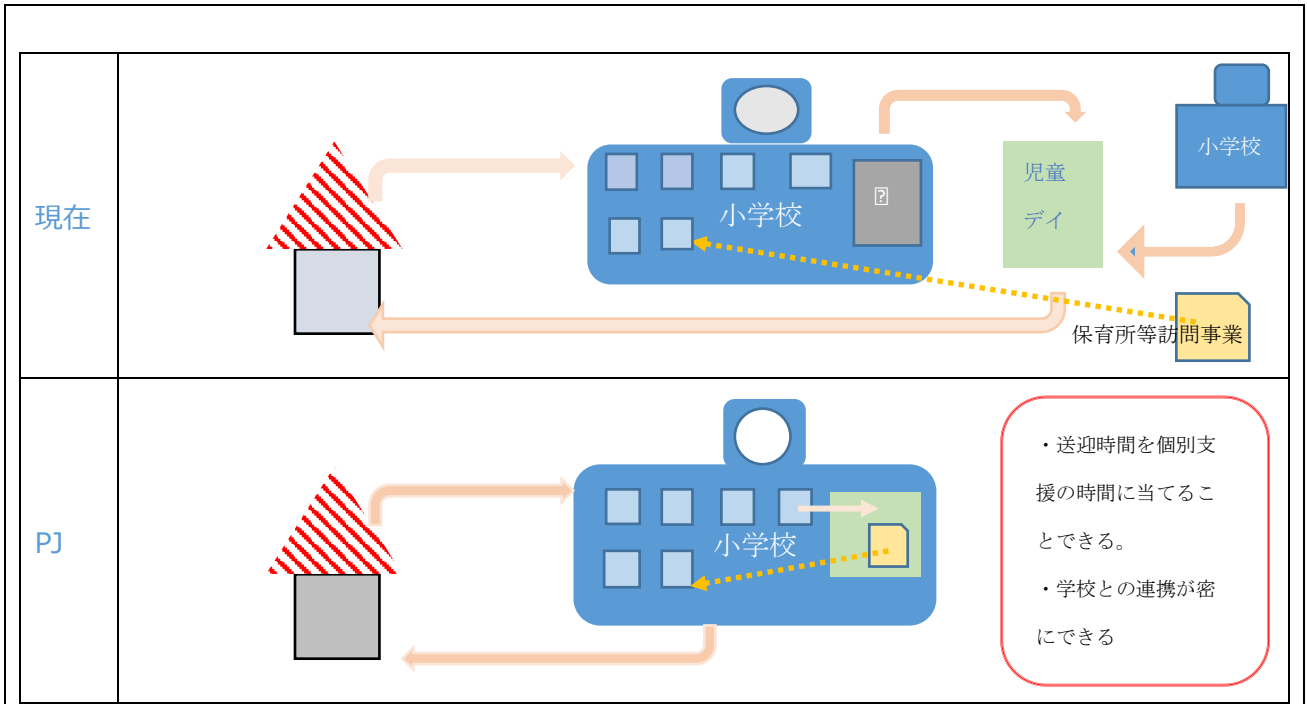
※1 児童発達支援とは

児童発達支援は、障害のある子どもに対し、身体的・精神的機能の適正な発達を促し、日常生活及び、社会生活を円滑に営めるようにするために行う。それぞれの障害の特性に応じた福祉的、心理的、教育的及医療的な支援である。(放課後等デイサービス含む)

※2 保育所等訪問(児童発達支援の事業の一つ)とは

保育所や幼稚園、小学校などの集団生活の場に通所(通園・通学)している障害児に対する支援である。2週間に1度程度、障害児と共に支援員が障害児の通う施設を訪問し、必要な支援や環境整備を行う。教育現場と協働して子供が安心して快適に集団生活を送ることを支援する取り組み。

(1) アイデアの内容 (公開)



(1日の流れのイメージ・案)

夏休み期間 (2024年8月)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	個別支援活動 研修 (人材育成)	個別支援活動	近隣の デイサービスと コラボ活動	個別支援活動 ☑言語療法 研修 (人材育成)	個別支援活動
午後	個別支援活動 ☑学習支援	個別支援活動 ☑地域解放日	個別支援活動	個別支援活動	個別支援活動 ♪音楽療法

夏休み明け (2024年9月～)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	保育所等訪問事業 児童デイサービスの職員が対象となる子供 (一人につき月2回) のクラスを巡回し、担任の先生と連携しながらサポートする。					♡保護者同伴日 (保護者支援) ☑地域解放日
午後	放課後デイサービス/児童デイサービス 個別支援活動 (療育) →→→ 17時送迎開始					

次にアイデアを提案する理由（なぜ） について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ** **2 ページ以内**で説明してください。ここでは

アイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

(1) アイデアの内容 (公開)

アイデアを提案する理由 (なぜ)

学校の現状：多様性のある子供たちが増えていく中で、人員の確保、教室の設置、専門的な知識がない状態での支援などに困っている先生が多い実態が見えてきた。

現場の先生の声

- ・特別支援教育の分野（専門性のある教育）は学んでいないため手探りでやっている。
- ・専門家の意見やアドバイスがその都度聞ける環境がない。
- ・「言葉」に関しての助言が欲しい。（実際に研修などをやってもらっているが予算の関係上、量として不十分）
- ・気になっている子がいても、保護者へうまく伝えきれず、誤解を招くケースがある。

児童デイサービスの現状：

- ・利用者は増えていく中でデイサービスを立ち上げるが、何か所かの小学校の子供達の送迎に追われ、本来の目的である「個人に合わせた個別支援の部分」にかかる時間が圧倒的に少ない。
- ・個別に支援をしても、生活の場（学校や家庭）との連携が上手く取れていないため、子供が混乱することがある。
- ・児童デイには通所できるが学校には行けていない不登校の子が増えている

保護者の声

- ・子供の特性を先生に伝えるが、理解してもらえないことが多い。（宿題の難易度や、授業を受ける態度など）
- ・学校での様子が分からない。（学校での出来事を言葉で伝えることが難しい子）
- ・何かあると、親が呼ばれ仕事と子育ての両立が難しい。（親がついていかないと登校できない、教室に入ることができない）

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

「何を」：小学校（教育）と児童デイ（福祉）がそれぞれの専門性を活かしてインクルーシブ教育に取り組む。

- ・学校の教員、児童デイスタッフ（専門職）それぞれの専門性を発揮することで、全ての子供に、質の高い教育を提供することができる。また働く側のモチベーションも保たれることで持続可能な働き方が確立できる。
- ・支援学級のクラスの数が年々増加傾向にあり、先生や加配の職員など人手や予算が足りていない。そこを児童デイサービスのスタッフが補うことで、先生たちの業務負担の軽減につながる。
- ・支援学級の種類も学校によってある学校とない学校があり、種類も多い。児童デイを入れることで分けずに一括して対応できる

「誰が」：那覇市の小学校（大名小学校予定）と児童デイサービス（新規に立ち上げ予定）

- ・大名小学校は2023年より、那覇市としては初のコミュニティースクールをスタートし、地域が一丸となって学校運営に取り組んでいる。地域の福祉事業所と一緒に、学校の課題の一つであるインクルーシブ教育のモデル事業としては目的や、目指している部分が一致しているのでモデル事業として導入していきやすい環境である。

「いつ」：2024年8月にモデル校としてスタート

2025年より、厚生労働省は、地域包括システムのスタートを推進していることから、それに向けて、2024年の「夏休み期間」より、スタートし、学校の職員との心合わせや研修をしながら進めていく。地域解放の日や、他事業所とのコラボイベントをすることで周知し、人材育成の視点も兼ね備えた事業として展開していく。

「どこで」 那覇市の大名小学校の空き教室

- ・大名小学校は、近隣の別の小学校に子供たちが流れていってしまっており、現在各学年に1クラスしかなく児童数が少ない。空き教室があるためその教室を有効活用できる。

(1) アイデアの内容 (公開)

・子供の数、先生達の数も少ないため、連携しやすい環境である。

「どのように」：空き教室の中に児童デイサービス設置し運営していく

・児童デイの施設基準に沿って空間を作り、スタッフの人件費なども既存の仕組みを使っていく。

C H A M P U R U U の代表である平良は、フリーの言語聴覚士として、地域を拠点に活動している。口腔外科外来での臨床、児童デイサービスでの臨床や、スタッフ向けの研修、保護者支援、保育所等訪問、言語聴覚士養成校での講義など医療・福祉・教育の現場で活動している中で、連携が全く取れていない現状が見えてきた。

2025 年からスタートする地域包括システム「医療・福祉・教育」の連携を推進している。「住み慣れた地域で自分らしく暮らす」というスローガンを掲げており、それは高齢者にと止まらず子供にも同じことが必要であると感じている。

今回モデル事業のアイデアが生まれた背景には、地域で関わっている福祉事業所、小学校、保育園、保護者などの困り感や、疲弊している声が多く聞かれたことがきっかけだ。単独で子供達を支えるのには、どこの領域でも限界を感じており、崩壊寸前である。インクルーシブ教育は、今後の学校をどう変えていくべきかの指針の一つになると考える。分ける教育は、共生社会につながるのだから？ S D Gs における人権、衡平とは、「違いを前提として、それぞれの権利を平等に得られるようにすること」定義している。「差別はダメ」という教育をしながら、一方では障害を理由として別々の場所で教育を受けることを当たり前とする教育は矛盾している。

小学校を訪問した際に、こんな出来事があった。ある子供が訪問員である私のところによってきて「〇〇くんは特別だから何をしても許されるんだよね」と言ってきた。障害があるから特別扱いはされるのではなく、人間は皆平等であり、誰もが特別な存在でなくてはならない。

学校に行くと、ほとんどの学校に「みんな違ってみんないい」というようなスローガンは掲示されている。しかし本当の意味で子供たちに伝わっていない、届いていないこの現状に悲しい気持ちになった。今後ますます多様性のある子供たちは増えていくことが予測される。フリースクールなどの学校も増えていこう。そこが悪いということではなく、選択肢の一つとしてあることは意義があると思うが、そこが増えることで、教育格差がますます加速していくことは想像できる。

地域の学校が生き残っていくためには、教育と福祉の協働は必須であると考えている。チーム名の「C A N P U R U U」は沖縄の方言で「ごちゃ混ぜ」という意味があり、「インクルーシブ」という意味と同じである。価値観の違う、また多様性のある人たちがごちゃ混ぜになることで、新しい学校の形が生まれ、それは文化になると確信している。新しい学校のあり方を、地域で協働して作り上げていくことで、学校が変わり、学校が変わるとまちが変わり、まちが変わると世界が変わり、最終的には地球が変わり、みんなの居場所プロジェクトの最終目標は「地球がみんなの居場所になること」だ。

(1) アイデアの内容 (公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源 (ヒト、モノ、カネ)** の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**

2. **実現に必要な資源 (ヒト、モノ、カネ)** の大まかな規模とその現実的な調達方法

3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. **実現する主体**

立ち上げるまでのリサーチや、地域への発信は、CHANPURUUのメンバーが主体となるが、モデル事業を実際に動かしていく人は、新規で立ち上げた「児童デイサービス」スタッフになってくる。スタートしてからも、CHANPURUUのメンバーには引き続きステイクホルダーの立場として、助言やアドバイスをしてもらいながら運営していく。また、人材育成の場としても展開していく。

2. **実現に必要な資源 (ヒト、モノ、カネ)** の大まかな規模とその現実的な調達方法

ヒト：児童デイサービスのスタッフとして経験を積んできた人（児童発達管理者、児童指導員、機能訓練など）

児童デイサービスを運営するのに必要な人材に声をかけていく。実現する過程の中で、会議を重ねていくのでその中からやりたい人、価値観や思いが近い人をリサーチしていく。また、CHANPURUUのメンバーの中には、実際に児童デイサービスを運営しているスタッフもいるため、その児童デイサービスの職員の中で興味のある人などをピックアップして、仲間に加わってもらい、一緒に事業を展開していく仕組みを作っていく予定。

モノ：児童デイサービス運営で必要な物品（コピー機、電話、PCなど）

学校の備品で共有できるものは共有させてもらいながら、必要な機材や、備品などは購入する。場所に関しては、空き教室を使えるように、学校、行政と相談しながら調整していく。

カネ：クラウドファンディングにて資金をつくる

モデル事業であるため、地域の人と一緒に作り上げたいという思いがある。大名小学校が今年度からコミュニティースクールを立ち上げていることもあり、地域住民や、一般企業、近隣の児童デイサービス、保護者を中心とした方に声をかけていく。それ以外でも、沖縄全体の課題であると考えている教育関係者、福祉事業所、専門職は少なくない。そこへも企画、思いを伝えながら地域の力で進めていく。また、メディア、SNSからも発信していく。

3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

目標：2025年の地域報カスシステムの開始に合わせて動いていく

→→モデル事業としては、2024年8月からモデル事業をスタートさせる。（約半年から1年）

(1) アイデアの内容 (公開)

	COG	CHANPURU	手続き関係
2024年 1月	審査	①キックオフ会議 ・顔合わせ ・キックオフイベントの提案 ・アンケートの内容 ・タイムスケジュールの確認	SNS アカウント作成 動画作成スタート マスコミへの依頼
2月	最終公開審査対象への追加質問	①会議 ・アンケートの内容 ・キックオフイベントの準備	
3月	最終公開審査と表彰	キックオフイベント (春休み) ・「みんなの学校」もしくは「夢見る学校」の上映会 ・みんなの居場所 P J の想いをシェアする ・アンケート配布	
4月	改善へのアドバイス	②会議 アンケートを回収・分析 ③会議 つながりたい人、企業等をステイクホルダーとして招き対話する機会を作る 「オープンダイアログ」	
5月		④会議 「オープンダイアログ」	クラウドファンディング スタート
6月		⑤会議 「オープンダイアログ」	児童デイ立ち上げに向けて申請手続き
7月 8月～		オープンイベント (夏休み) CHANPURU なつまつり ・夏休み期間は研修等を開催しこの企画の目的をみんなで落とし込んでいく ・近隣の児童デイとの交流 ・地域解放日で関係性づくり	児童デイサービス開所